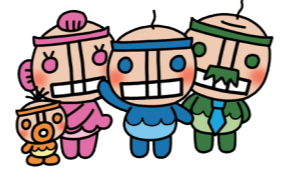


豪雨災害

異常気象が引き起こす

豪雨や台風による災害は、数年に一回程度でしたが、近年は毎年どこかで、大きな被害が生じています。その原因は、温室効果ガスによる地球温暖化がもたらす極端な気象現象だと考えられています。異常な大雨によって、これまでになかった災害が、これまでに起こらなかった場所で発生しています。

1,000年に一度の大雨が降る時代だからね。

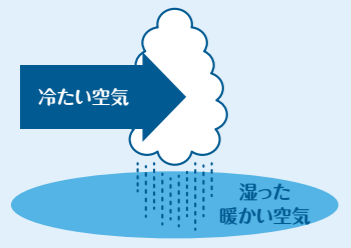


ゲリラ豪雨・線状降水帯・台風に注意！

日本の年平均気温は100年あたり1.26℃の割合で上昇しており、とりわけ1990年以降、高温になる年が多くなっています。気温が上がると空気中に含まれる水蒸気量が多くなり、それとともなって雨を降らせる力が大きくなるため、極端に激しい雨が降るのです。

ゲリラ豪雨

予測不可能な「局地的大雨」のことで、近年増加。急に発生・発達した積乱雲により短時間に時間雨量が50mmを超えるような猛烈な雨が降る。



湿った暖かい空気の上に、冷たい空気が入り込んで積乱雲が発生する

線状降水帯

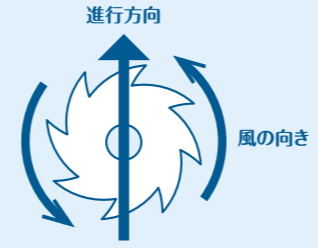
台風や梅雨前線などにより積乱雲が列になって作り出される強い降雨域をいう。数時間にわたって同じ場所にとどまり、局地的な集中豪雨をもたらす。



発達した積乱雲が次々と発生する

台風

海面温度27℃以上の暖かい海から供給される水蒸気がエネルギー源。温暖化による海水温上昇のため、勢力が衰えないまま日本にやってくるが増えた。



台風の風は反時計回りの渦巻き。中心より右を「危険半円」と呼び、強風に注意

平成30年7月西日本豪雨における西予市の被害状況

西日本に停滞した梅雨前線に、台風7号がもたらした湿った空気が流れ込み、広範囲に線状降水帯が発生して、記録的集中豪雨となった。西予市では河川氾濫の起こった野村町をはじめ、市内各所で未曾有の被害となった。

人的被害 死者 6名 直接死…5名 関連死…1名	公共土木施設等の被害 1,261件	家屋被害(住家) 合計 592棟 全壊…127棟 半壊…274棟 一部破損…27棟 床上浸水…22棟 床下浸水…142棟
公共施設等の被害 43件	ライフラインの被害 停電…最大約 8,510戸 その他携帯等の不通、断水、生活交通バスの運休	

出典：「平成30年7月豪雨における西予市災害対応に関する検討報告書」

コラム

「災害伝承展示室」で記憶を新たに

野村町乙亥会館の中に誕生した「災害伝承展示室」は、西日本豪雨災害の記録と記憶を後世に伝える施設。氾濫によってまちが浸水する様子をVR(仮想現実)で体感できたり、避難時の恐怖や後悔を語る住民たちの証言を読んだりして、防災の学習に活用されています。



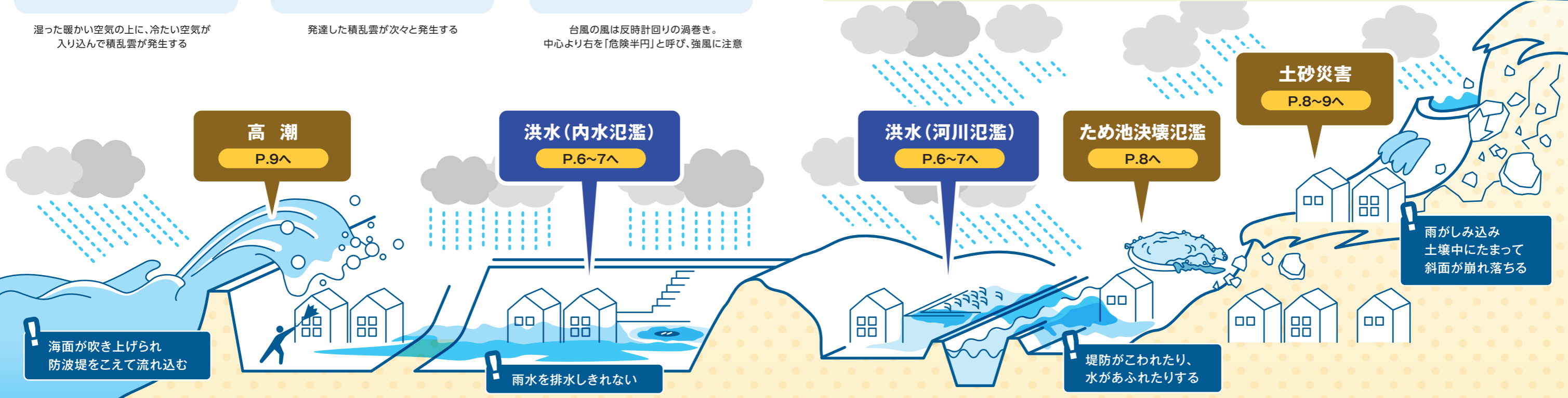
雨量と風速の目安

雨

- 強い雨** (1時間に20~30mm) 土砂降りや側溝があふれ、小川は氾濫。傘をさしても濡れる。
- 激しい雨** (1時間に30~50mm) バケツをひっくりかえしたよう。道路が川のようになる。
- 非常に激しい雨** (1時間に50~80mm) 滝のように降る。視界が悪くなる。傘は役に立たない。多くの災害が発生。

風

- やや強い風** (毎秒10~15m) 傘がさせない。風に向かって歩きにくくなる。
- 強い風** (毎秒15~20m) 風に向かって歩けない。看板やタン板が外れ始める。
- 非常に強い風** (毎秒20~25m) 何かにつかまらなると転倒する。飛散する屋根瓦もある。



土砂災害

集中豪雨や地震後の大雨に注意

急斜面や溪流周辺で起こる土砂災害。急峻な地形と脆弱な地質を持つ西予市は、大雨や地震による土砂災害の発生しやすい地域です。

土砂災害のメカニズム

土砂災害には「がけ崩れ」「土石流」「地すべり」があり、多くが大雨によるものですが、地震によっても引き起こされます。

警戒の目安

1時間に20mm以上の強い雨が降ったり、降り始めてからの雨量が100mmを超えたりすると、一般に土砂災害が起こりやすくなるといわれます。

土砂災害のおそれを示す2つの警戒区域を知ろう

土砂災害警戒区域 (通称:イエローゾーン)

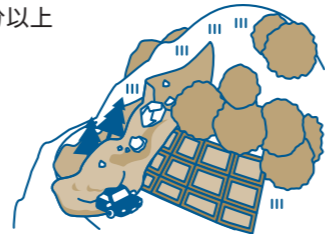
土砂災害のおそれがあり、発生した場合、住民の生命または身体に危害が生じるおそれのある区域のこと。

土砂災害特別警戒区域 (通称:レッドゾーン)

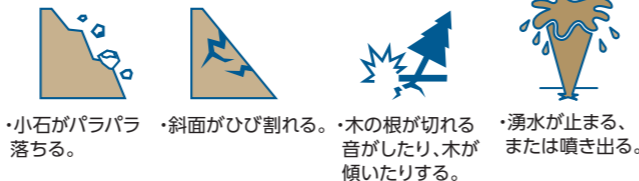
土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民の生命または身体に著しい危害が生じるおそれのある区域のこと。

がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)

豪雨や地震などによって、斜面の地表に近い部分が、急激に崩れ落ちる現象。崩れ落ちるまでの時間が短いので、逃げ遅れて人命が奪われることも。発生件数は土砂災害の半分以上を占める。



《前兆現象》



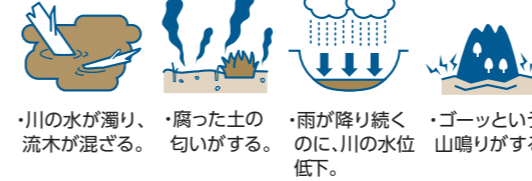
・小石がパラパラ落ちる。
・斜面がひび割れる。
・木の根が切れる音がしたり、木が傾いたりする。
・湧水が止まる、または噴き出る。

土石流

長雨や集中豪雨によって、溪流において山腹崩壊で生じた土砂や石が、水と一緒に流下する現象。時速40~50kmの速度で雪だるま式に膨らみながら進むため、あっという間に人家や畑を押し流す。



《前兆現象》



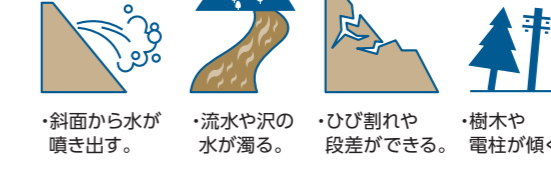
・川の水が濁り、流木が混ざる。
・腐った土の匂いがする。
・雨が降り続けるのに、川の水位低下。
・ゴースという山鳴りがする。

地すべり

地下水の影響と重力によって、ゆるやかな斜面の一部あるいは全体が、ゆっくりとすべり落ちる現象。家や畑、木と一緒に大きな塊となって移動する。動く土塊が大きいために、甚大な被害が発生する。



《前兆現象》



・斜面から水が噴き出す。
・流水や沢の水が濁る。
・ひび割れや段差ができる。
・樹木や電柱が傾く。

集落が孤立してしまったら...

道路崩壊や落橋によって交通手段が遮断されると、山間部では集落全体が孤立します。公的援助に時間がかかり、ライフラインの復旧も進まないことを想定し、山間部の家庭では1週間程度の水や食料、生活必需品を備蓄しておきましょう。



集落で機材や物資の備蓄を!

土砂災害警戒情報に注意!

土砂災害警戒情報は警戒レベル4に相当し、市が避難指示を出す目安となる情報です。この発令は、緊急度が高く災害が迫っていることを示しています。

土砂災害の多くは木造の1階で被災している

土砂災害の発生による河道閉塞

水平避難

基本は水平避難。指定避難所や高台、知人宅など安全な場所に避難する。

垂直避難

近隣にある堅牢な建物の2階以上や高い建物の高層階に避難する。

屋内安全確保 (斜面の反対側)

非常に激しい雨や、すでに暗くなっているなど、外に出るのが危険な時は、家の中で斜面と反対側のできるだけ高い階に移動する。

がけ

知人・親戚宅、ホテルなど

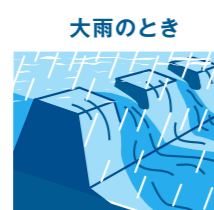
地震後の降雨はさらに危険

土砂災害は地震によっても起こり、地震後の降雨は一層危険です。大地震により地下の深い部分まで地盤がゆるむため、わずかな降雨で土砂災害が起こることも。勾配のゆるい斜面や溪流なども注意が必要です。



ため池決壊氾濫

現在、西予市内の農業用ため池292カ所のうち、決壊して人的被害を与えるおそれがある「防災重点ため池」は187カ所。大雨のため、ため池の水位が上昇して堤防を越えた水の勢いが堤防を侵食・決壊して土砂災害を起こすことがあり、下流域の建物に被害をもたらします。



ため池の堤防は大地震によって亀裂が生じたり、地盤の液状化のために決壊することもある。

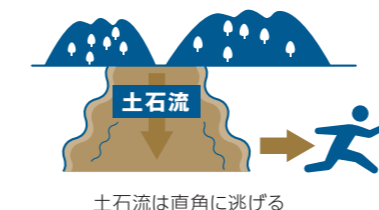
土砂災害による「河道閉塞」

河道閉塞とはがけ崩れや土石流によって大量の土砂が川をせきとめ、天然のダムのようなことになること。上流側は水がたまって浸水被害が生じ、下流側では土石流の危険性があります。河道閉塞を確認したら、下流側の住民は速やかに避難を。



避難のポイント

水平避難が基本。避難先は、指定避難所、安全な親戚や友人宅、ホテルなど、複数考えておきましょう。なお、がけのそばにいる時は、がけの高さから2倍の距離まで離れること。土石流は土砂の流れから直角に逃げてください。

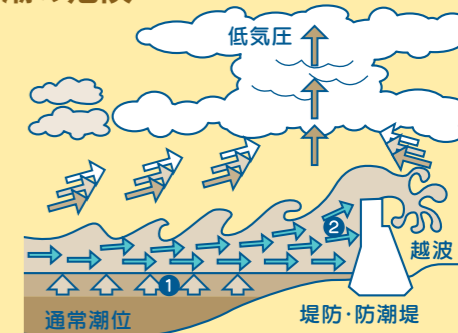


土石流は直角に逃げる

コラム

■ 高潮の危険 ■

高潮は台風や発達した低気圧の接近により、低い気圧による「海面の吸い上げ効果」と強風による「海岸への吹き寄せ効果」のため、海面が異常に高くなる現象。防波堤を超えたり破壊したりして海水が入り、家屋の浸水・倒壊をもたらしたり、構造物を破壊したり、交通障害や産業被害を引き起こしたりします。



- ① 気圧低下による吸い上げで高くなった潮位
- ② 風による吹き寄せで高くなった潮位

地震

明日起こるかもしれない

東西に長く1,400mもの標高差を持つ西予市では、巨大地震が起こると、海岸部では津波、古い家屋の多い市街地では建物倒壊、山間部では土砂災害と、各地域で甚大な被害が予想されています。

30年以内におこる
確率70~80%



南海トラフ巨大地震のメカニズム

南海トラフとは大陸プレートの下に海洋プレートが沈み込んで溝のような地形をした所。ここにたまった「ひずみ」が限界に達すると一気に動いて巨大地震が発生します。マグニチュード8~9の巨大地震は今後30年以内に70~80%の確率で起こり、被害は東日本大震災をはるかに超えると予測されています。



西予市の最大想定震度：震度7（平野の一部）
西予市の想定震度：震度6弱以上

西予市の被害予想

揺れによる建物被害	全壊棟数 10,342棟 半壊棟数 9,920棟
建物倒壊による人的被害	死者数 635人 負傷者数 3,887人
火災による人的被害	死者数 80人 負傷者数 26人
ブロック塀等の転倒	ブロック塀 1,137件 石塀 483件 コンクリート塀243件

上水道被害(発災直後) 断水人口 39,213人(断水率100%)

電力被害(発災直後) 停電軒数 26,647軒(停電率100%)

出典：「愛媛県地震被害想定調査結果」H25.12

地震発生

「緊急地震速報」を見たり聞いたりしたら、強い揺れがくるまでの短い時間に、身を守る行動をとる。ドアを開けて避難路を確保するのもよい。

命を守る行動!

姿勢を低く・頭を守って・動かない



物が落ちてこない、倒れない、移動しない場所で

机などが無い時

姿勢を低くしてクッションや本などで頭を守る。

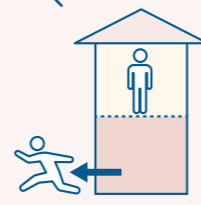
揺れの収まりを待って



・火の始末
調理・暖房器具の火を消す。
出火したら落ち着いて消火。

・出口確保
ドアや窓、玄関ドアを開けて避難できるように出口を確保。

古い木造建物は倒壊する危険性が高いので、2階なら慌てておりない。1階なら外に出る。



古い木造建物
※1981年5月31日(建築基準法施行令改正)以前に建てられた建物は安全性が低い。

自宅にいたら

リビング&キッチン

家具の転倒、窓・照明器具のガラス飛散、大型家電や食器類の飛び出しに注意。揺れが収まったらドアを開けて避難路を確保。



寝室

布団や枕で頭を保護。揺れが収まったらドアを開けて避難路を確保。



トイレ

揺れを感じたらドアを開けて避難路を確保。



浴室

揺れを感じたらドアを開けて避難路を確保。洗面器などをかぶって頭を守る。



発災時のこれに注意!

火をつけない
(漏れたガスに引火する可能性があるため)



電気スイッチにさわらない
(通電火災の危険があるため)



ブレーカーをあげない
(自動で落ちたブレーカーはそのままだ)

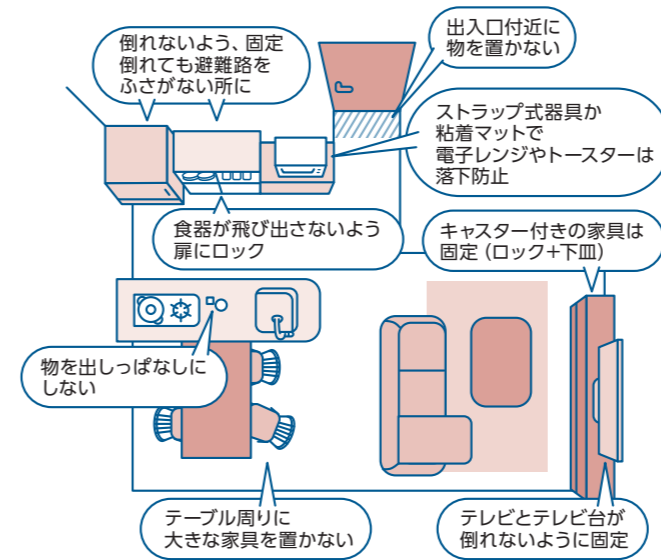


不要不急の電話は控える
(電話回線のパンクを防ぐため)

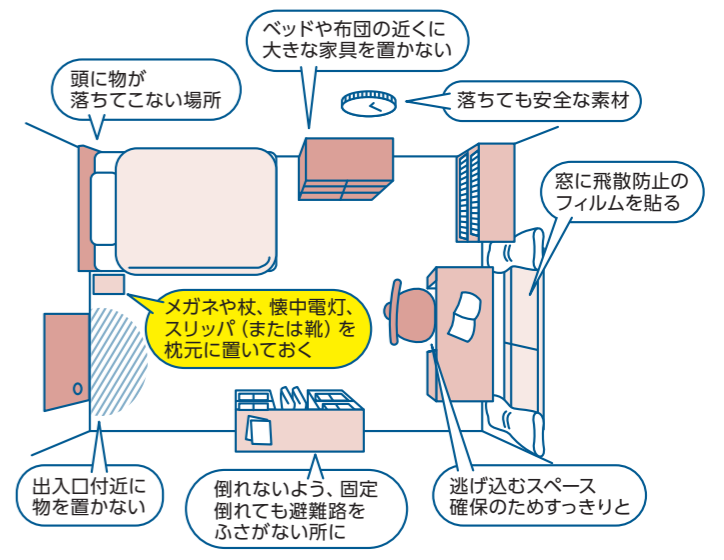


日頃行うおうちの地震対策(家具の配置や転倒・落下防止)

リビング&キッチン



寝室



補助金の活用

住まいの耐震化

木造住宅の耐震診断を行うための技術者派遣、木造住宅耐震診断費用の一部補助、木造住宅耐震改修工事費用の一部補助、ブロック塀等改修費用の一部補助を行っています。詳しくは市役所建設課 TEL0894-62-6410へ。

家具転倒防止対策

家具転倒防止器具を購入し、居住する住宅に設置した高齢者等の方に補助金を交付しています。詳しくは市役所危機管理課 TEL0894-62-6491へ。

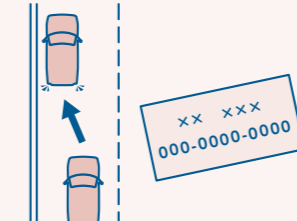
倒壊物・落下物に注意

ブロック塀、電柱、壊れた建物、自販機から離れる。落ちてくる瓦やガラスの破片、看板などから、カバンなどで頭を守る。



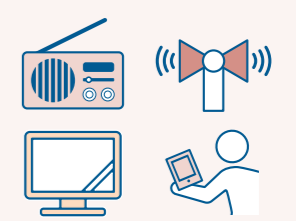
運転中なら

急ブレーキ急ハンドルをせずゆっくり速度を落とし、ハザードランプを点灯したまま道路左側に停止。車を離れる時はキーを付けたまま、ドアはロックせずに連絡先を書いたものを置き、車検証を持って移動する。



情報収集と避難の判断

防災行政無線をはじめ、テレビやラジオ、スマートフォンなど、複数の方法から正しい情報を入手する。避難する場合は、①ガスの元栓を閉める ②ブレーカーを落とす ③玄関先にメモを貼る(家族の安否や避難先など)を行い、カギをかけて移動する。



外にいたら

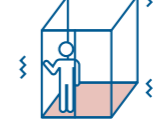
職場

カバンなどで頭を守り机の下へ。パソコンやコピー機、キャビネットの転倒や移動に注意。



エレベーター

全部の階のボタンを押し止まった階でおりる。閉じ込められたら非常ボタン等で連絡。



海岸部

津波の危険があるのですぐに津波緊急避難場所、高台や高い建物の屋上へ。川からも離れる。



山間部

地震で地盤がゆるみ土砂崩れのおそれがあるので、急いで崖や急斜面から離れる。



避難時のこれに注意!

車で避難しない

倒木や道路陥没、信号機の不動作などで走行が難しい上、緊急車両の通行を妨げてしまうことがあるので、原則徒歩で避難する。



エレベーターを使わない
余震や停電のためエレベーターが停止することがあるので、階段を使う。

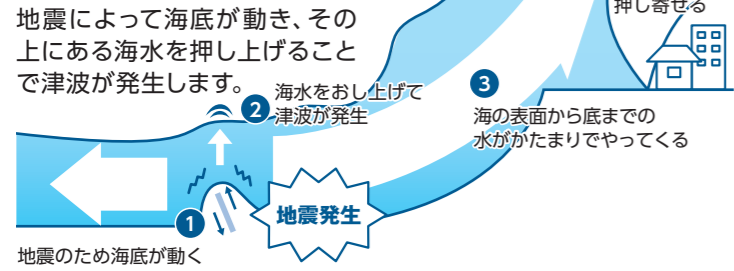


津波

地震とセットでやってくる

南海トラフ巨大地震では四国や近畿、東海地方などの沿岸部で最大30mを超える津波の発生が予測されています。津波の特徴をよく知り、命を守る知識を頭に入れておきましょう。

津波のメカニズム



「とにかく早く」「少しでも高い所へ」がポイント



南海トラフ巨大地震における想定

- ◇三瓶港：
 - 海面に+20cmの変動が生じるまでの時間：7分
 - ※海辺にいる人に危険の及ぶ水位の変化
 - ・最高津波水位：9.3m(平均満潮位1.0m+最高津波波高8.3m)
 - その到達時間：81分
- ◇西予市の津波最大浸水深：8.7m

※津波の水位は海上での潮位を標高で表示しており、浸水深は陸上での潮位(水位)をいう。気象庁が発表する「予想される津波の高さ」は海岸線での値のこと。

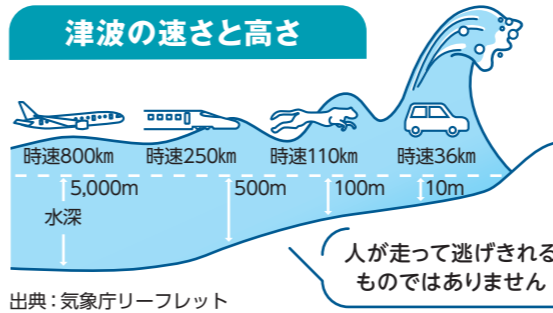
西予市の被害予想

- ・津波による建物被害 全壊 2,961棟 半壊 286棟
- ・津波による人的被害 死者数 634人 負傷者数 27人

出典：「愛媛県地震被害想定調査結果」H25.12

津波の5つの特徴

津波の速さと高さ



津波は水深が深いほど速く伝わる性質があり、沖合での速度はジェット機並みで、水深10mでも車の速さほど。また深い所では波高は低いが、陸に近づくにつれ水深が浅くなるため波が遅くなり、後ろからの波が覆いかぶさるため波高が高くなる。

引き波もものすごい威力

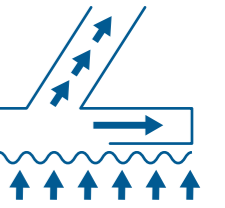
「津波の前には潮が引く」のは間違いで、最初に押し波の時もある。また、引き波は徐々に速くなるので、押し波より破壊力が大きくなる。

繰り返し来襲

津波は何度も繰り返して来襲する。第1波が一番高いとは限らず、何時間もたってからやってくる波が最大のことがあるので油断は禁物。

河川や水路を遡上

海岸に到達した津波は陸上を遡上する。河口から入って河川や運河、水路を駆け上がり、内陸深く進むので、川や水路から離れよう。



地形による増幅

津波の高さは海岸付近の地形で変わる。V字型の湾や岬の先端は津波のエネルギーが集中するので、被害が大きくなる。

地形による津波の増幅の例



津波はV字型の湾の奥に集まる



津波は岬の先端に集まる

津波とは

海面全体が盛り上がり、切り立った巨大な水の壁がすごいスピードと迫力でやってくるイメージ。

津波到来

津波注意

津波が来ると危ない場所を示す

車を使うと渋滞などでスムーズに避難できないおそれがあるので、原則徒歩で避難

津波を見てから逃げるのでは間に合わない

津波緊急避難場所

高台

勇気を出して率先避難

逃げ遅れたら

津波避難ビル

指定緊急避難場所

P20~74のハザードマップで浸水想定区域と浸水深を確認してね。想定以上になることがあるので、油断厳禁!

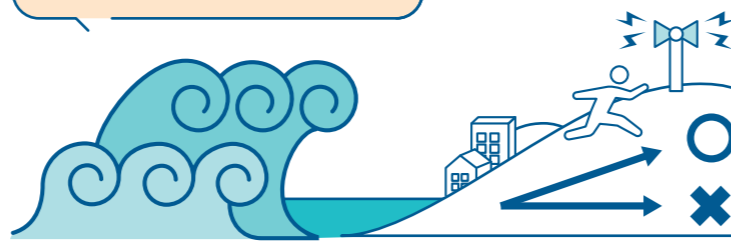
木造家屋には避難しない 3階以上の古くない鉄筋コンクリート

津波警報・注意報ととるべき行動

予想される津波の高さ		わたしたちがとるべき行動
表現	数値(発表基準)	
大津波警報	巨大	10m超(10m<高さ)
	高い	10m(5m<高さ≤10m)
		5m(3m<高さ≤5m)
津波警報	高い	3m(1m<高さ≤3m)
津波注意報	—	1m(20cm≤高さ≤1m)

気象庁は巨大地震発生後、最初の津波警報で、予想される高さを「巨大」「高い」という簡潔な言葉で非常事態を伝える。

避難のポイント



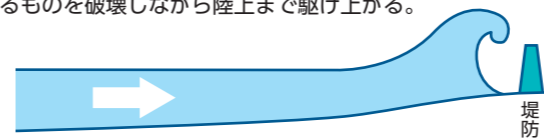
- その1 海の近くで強い揺れや弱くても長い揺れを感じたら、急いで逃げる。
- その2 揺れを感じなくても、津波警報を見たり聞いたりしたら急いで逃げる。
- その3 「より遠く」ではなく「より高く」を目指す。
- その4 高台や決められた津波緊急避難場所に逃げられない時は、頑丈な建物のできるだけ高層階に避難する。木造家屋には避難しない。
- その5 津波は長時間続くので、津波警報・注意報が解除されるまで避難を続ける。市から出ている避難情報も確認する。

津波と波浪の違い

津波

- 地震で発生。
- 波長は数km~数百kmと長い

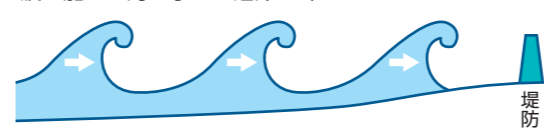
海底から海面までの海水全体が大きな水の壁となって動くため、あらゆるものを破壊しながら陸上まで駆け上がる。



波浪

- 風で発生。
- 波長は数m~数百mと短い

海面付近の海水だけが押し寄せるので、津波と同じ高さでもひとつひとつの波に加わる力が小さく沿岸で砕ける。



津波の威力と破壊力

浸水深

100cm

・ほとんどの人が亡くなる

20~30cmの津波でも危険!

30cm

・流れに巻き込まれて、押し流されることもある

地面

浸水深

16m

鉄筋コンクリートのビルが全部壊れる

8.0m

石造の家が全部壊れる

4.0m

木造の家が全部壊れる

2.0m

木造の家が一部壊れる

地面

浸水が0.5m程度でも漂流物が直撃すると被害が出ることもある。また、陸上を遡上する津波は、壊された建物や車、打ち上げられた船など、様々な物を巻き込んで進むため、すさまじい破壊力となる。

コラム

■原子力災害が起こったら■

伊方原子力発電所で万が一事故が起こり、放射性物質が放出された場合の行動を知っておきましょう。

発生時の行動

- 正しい情報入手し、デマに惑わされないようにする。
- 屋内退避指示がでた時
 - ・帰宅したら顔や手を洗い替える
 - ・ドアや窓をすべて閉める
 - ・換気扇などを止めて外気の侵入を防ぐ
 - ・食品にラップをかける
- 避難指示が出た時
 - ・ブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉め、窓やドアの鍵をかけて、隣近所助け合いながら避難する。帽子、マスク、手袋、動きやすい履き慣れた靴、長袖・長ズボンを着用。



日頃の備え

小さな準備の積み重ね

必ずやってくる災害から身を守るには、自分はどうか、わが家はどうかと想像して、日頃から準備しておくことが肝心です。

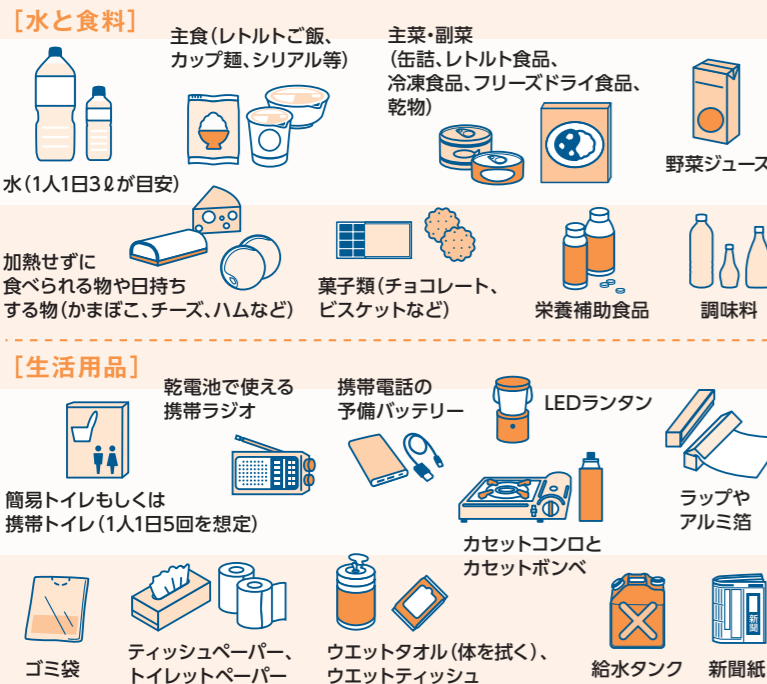
非常用持ち出し品 (例)

避難した際、必要となる最小限の物を、リュックなどに入れて持ち出します。自分にとって必要なものを考えましょう。



備蓄品 (例)

在宅避難時の備蓄品は、水・電気・ガスのライフラインが寸断されたと想定しておきましょう。家族の人数で1週間、生活できる備蓄が目標です。



知識だけでなく行動を起こそうね!



暮らしの中の備え

1. 情報収集手段を確保

災害時には正確な情報収集が大切です。携帯ラジオ、スマートフォン、パソコンなど、複数の情報収集手段を確保しておきましょう。



2. 防災訓練に参加

地域の防災訓練などでは、イメージトレーニングをしながら体験するので、参加しておくといざという時にあわてないで行動できます。



3. 隣近所の人との交流

万が一の時、たよりになるのが近所さん。普段からコミュニケーションを図り、交流しておきましょう。



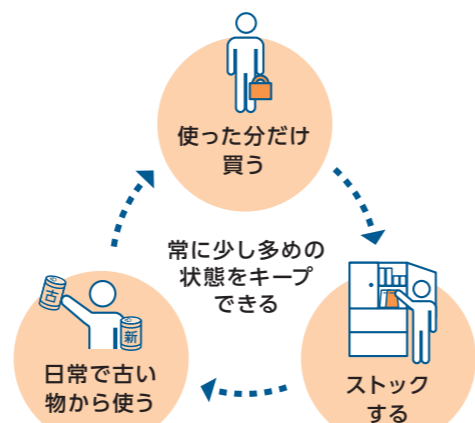
4. 家族のルールの決定

家族で防災会議を開いて、家族がバラバラで被災した時のために、集合する避難場所を話し合っておきましょう。



5. ローリングストックで行う日常備蓄

ローリングストックとは、特別な物ではなく普段使っている物を少し多めに備えて、消費したらその分買い足し、常に一定量の物を家に備蓄すること。無理なく無駄なく暮らしの中で備蓄ができます。



西予市からの情報発信 西予市では様々な手段を使って情報を発信します。入手方法を知り、日ごろから確認しておきましょう。

①防災行政無線: 災害時に屋外スピーカーや戸別受信機から避難情報などを知らせる。

②広報車: 西予市の車両や消防車両からマイク放送をする。

③ラジオ、テレビ、CATV: 災害情報、避難情報、避難所開設情報などを伝える。

④インターネット(市HP、市公式SNS): 各種警報や避難情報などの発令状況、被害状況や道路情報などを伝える。

⑤スマートフォン向けアプリ: 防災行政無線配信アプリ「コスモキャスト」をスマートフォンにインストールし、郵便番号を入力して登録すると西予市からの放送を聞くことができる。

⑥愛媛県防災メール: 防災情報や緊急のお知らせを、携帯電話やパソコンに電子メールで配信。

⑦えひめ河川メール: 河川の水位情報やダム放流情報がメール配信される。

⑧自主防災組織を通じた連絡: 市災害対策本部からの指示、指導、救助措置を連絡。

⑨サイレン等: ダムの放流、河川の増水、火災発生などを知らせる。

App Storeからダウンロード

Google Playからダウンロード

地域住民

おすすめサイトとアプリの例 災害時に役立つサイトとアプリを日頃からチェックしておきましょう。

サイト

国土交通省 [川の防災情報]	気象庁HP	[気象庁ナウキャスト]	[NHKそなえる防災]	[えひめの防災・危機管理]
水位や雨量、警報や予報まで、河川情報がわかる。 https://www.river.go.jp/index	気象情報、地震・津波情報などを掲載。 https://www.jma.go.jp/jma/index.html	全国の降雨量や予測を地図上に表記する。 https://www.jma.go.jp/bosai/nowc	災害や防災について学ぶことができる。 https://www.nhk.or.jp/sonae/	愛媛県の防災情報ポータルサイト。 https://www.pref.ehime.jp/bosai/

アプリ

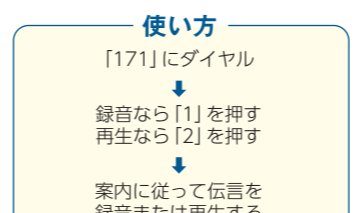
[NHKニュース・防災]	[Yahoo! 防災速報]	[せいよ暮らしのアプリ]	[NHK NEWS WEB]	[NHKネットラジオらじる★らじる]
NHKの災害関連のニュースをチェックできる総合防災アプリ。 https://www3.nhk.or.jp/news/news_bousai/app/	避難情報や津波情報、自治体からの緊急情報をリアルタイムで通知する。 https://emg.yahoo.co.jp/	イベント、休日当番医、防災への備えなど暮らしに役立つ情報を提供するアプリ。 https://www.city.seiyo.ehime.jp/apple_about.html	インターネットでNHKのニュースを見ることが出来る。 https://www3.nhk.or.jp/news/	NHKラジオ第1、第2、FMの番組をインターネットで聴くことができる。 https://www.nhk.or.jp/radio/

※アプリは、防災行政無線配信アプリ「コスモキャスト」、ラジオアプリ、位置情報を発信するアプリ、SNSアプリなども、もしもの時に重宝する。

家族の連絡方法・安否確認方法

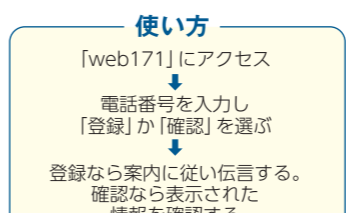
災害用伝言ダイヤル「171」

被災地域の市内局番から始まる自宅電話番号あてに安否情報を音声で録音(30秒)すると、全国からその音声を再生できる。



災害用伝言板 web171

インターネットで安否確認を行う。家族らとあらかじめ決めていた登録用電話番号に音声や文字を入れると、メールや電話で伝言が届く。



災害用伝言板サービス

携帯電話各社が提供するもので、携帯電話やスマートフォンから安否情報の伝言を文字で登録すると、全国から伝言が確認できる。音声サービスあり。

J-anpi

氏名または電話番号で、携帯電話各社が提供する災害用伝言板、報道機関、協力企業や団体、自治体が提供する安否情報サービス、一括して検索できる無料サイト。
<https://anpi.jp/>

SNSの注意

災害時に力を発揮するSNSですが、不確かな情報が拡散されるケースもあるので、信頼できる情報か発信元を確かめたり、最新情報であることを確認したりしましょう。

マイ・タイムライン

マイ・タイムライン
白紙ページは
西予市HPから



わが家の避難行動予定を作ろう

台風や豪雨をもたらす水害は気象現象が先行します。気象情報・避難情報に応じて、わが家では誰が何をどうすべきか、時系列に整理したマイ・タイムラインを作ってみましょう。

●たとえば、こんな家族の場合なら…

- ◎家族構成：祖母、父母、子どもたち、犬
- ◎避難のタイミング：
 - ・祖母と母と犬：警戒レベル3の時、車で親戚宅に自主避難。
 - ・父と子どもたち：警戒レベル4の時、最寄りの指定避難所〇〇小学校へ歩いて避難。
- ◎ハザードマップで確認：
 - ・脇川洪水浸水想定区域 [含まれている 含まれていない]
 - 含まれている場合の浸水深：[] m
 - ・土砂災害警戒区域 [含まれている 含まれていない]
- ◎避難先：
 - ・親戚の家：車で20分
 - ・〇〇小学校：500m徒歩5分

警戒レベル	気象情報・避難情報	わが家のマイ・タイムライン (記入例)
5	緊急安全確保※1	・万が一逃げ遅れたら、2階の部屋に移る。それを親戚に伝えておく。
警戒レベル4までに必ず避難！		
4	避難指示※2	・戸締りをし、ガスの元栓を閉め、電源ブレーカーを切る。[父] ・歩いて〇〇小学校へ避難。[父と子どもたち] ・遠方の親戚に家族が避難したことを伝える。[父] ・避難完了後、最新の状況をラジオなどで確認する。[父と母]
3	高齢者等避難※3	・川の水位をこまめにチェック。[父と母] ・車で親戚の家に避難。[祖母、母、犬] ・電気・ガスなどの火を消し家じゅうの窓やドアに鍵をかける。[子どもたち] ・避難準備をする。[父と子どもたち] ・隣のおじさんを〇〇小学校へ避難させる。[父]
2	大雨・洪水・高潮注意報(気象庁)	・非常用持ち出し品をそろえる。貴重品も入れる。[母] ・物干し竿、三輪車、植木鉢など飛びそうな物を家の中に入れて強風対策。[父と母] ・重要書類、移動可能な家電製品、思い出のアルバムなど大切なものを2階に移動させる。[父] ・断水に備えて容器や浴槽に水をためる。[父] ・停電に備えてランタンやラジオを使う準備。[父] ・避難経路や避難場所を確認。[全員] ・携帯電話の充電。[父と母] ・避難所の開設状況を確認。[父] ・お世話になる親戚の家に連絡。[母] ・動きやすい服装に着替える。早めの食事をとる。[全員] ・隣のおじさんに声を掛ける。[父]
1	早期注意情報(気象庁)	・情報収集につとめる。台風の進路と接近予想日時を確認。[父と母] ・家族の行動予定を確認。[母] ・非常持ち出し品や備蓄品を確認、必要なものの買い出し。[母] ・車にガソリンを入れる。[父] ・常用薬、持病薬を確認。[母] ・犬のリードとえさの準備。[子どもたち] ・簡易水防(水のう)や止水板を作る。

TVニュースやインターネット情報を見て数日前から備えておこう!



地区ごとの危険箇所や避難所がわかる 西予市ハザードマップ

20ページ以降のハザードマップには、下記のような情報を記載しています。

- 土砂災害警戒区域 ●南海トラフ巨大地震時の津波浸水想定区域と最大浸水深
- 脇川洪水時の浸水想定区域と最大浸水深 ●指定避難所や指定緊急避難場所、津波緊急避難場所や津波避難ビル

お住まいの地域をチェックして、危険箇所や災害別に危険度合いを確認しておきましょう。

※津波浸水想定とは、最大クラスの津波が悪条件下で発生した場合に想定される浸水の区域と水深(浸水深)を表したもので、洪水の場合も同様です。ただし、想定以上の浸水深になる場合や、浸水想定区域に入っていない区域でも浸水が発生する場合がありますので、注意してください。

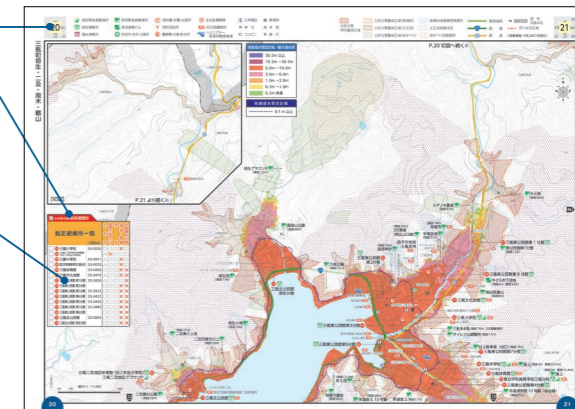
ハザードマップの見方



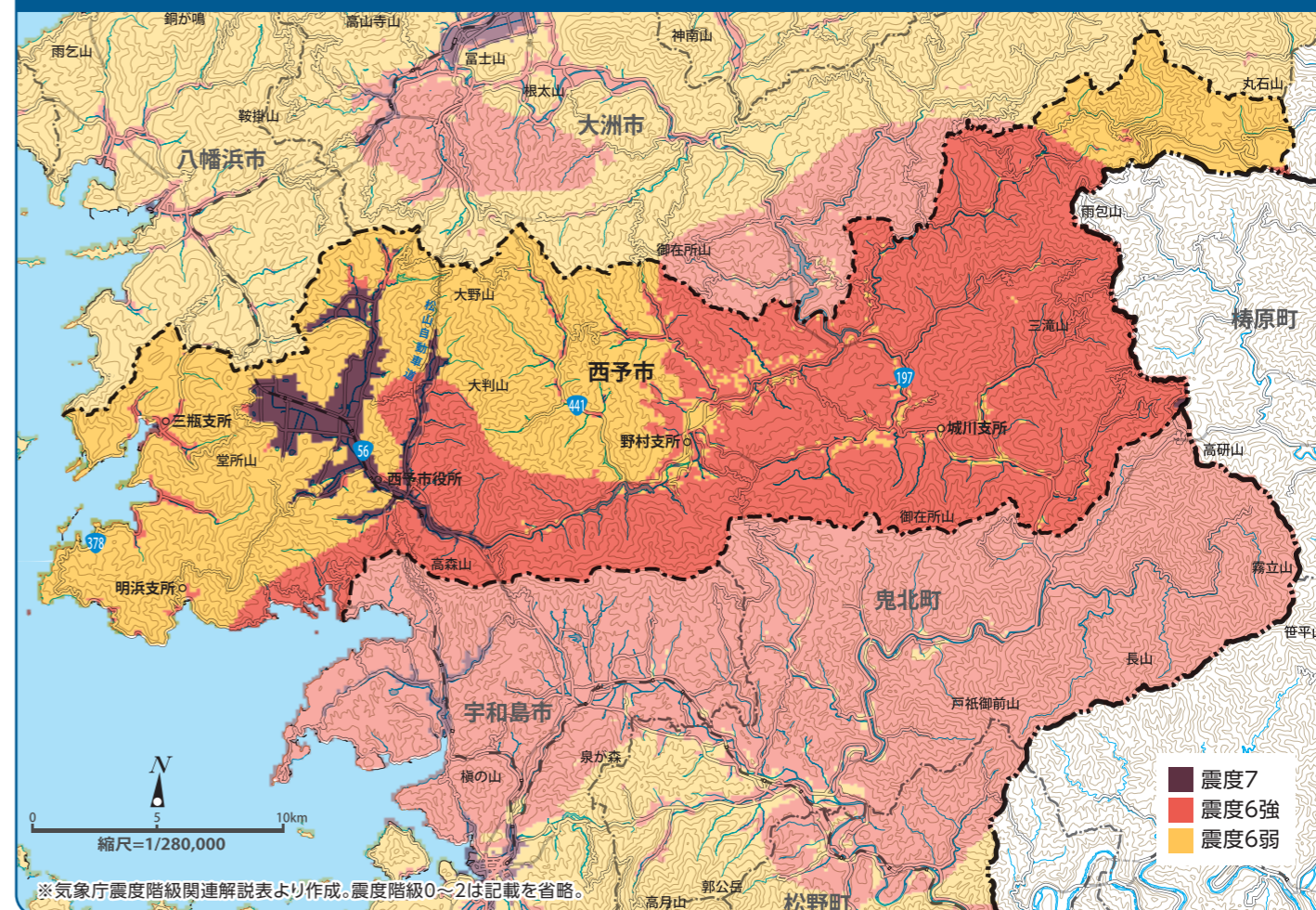
A 左上や右上には隣接地域のページを記載。

B 自宅や職場から最寄りの避難所を地図上でチェックしてください。その際、避難経路の確認も。

C 避難所は災害ごとに異なるため注意のこと。
△印はその避難所(建物)が土砂災害や洪水の浸水想定区域内にあり、建物の一部又は全部が該当しますが、大規模災害でない場合や2階以上の利用が可能な場合を意味します。

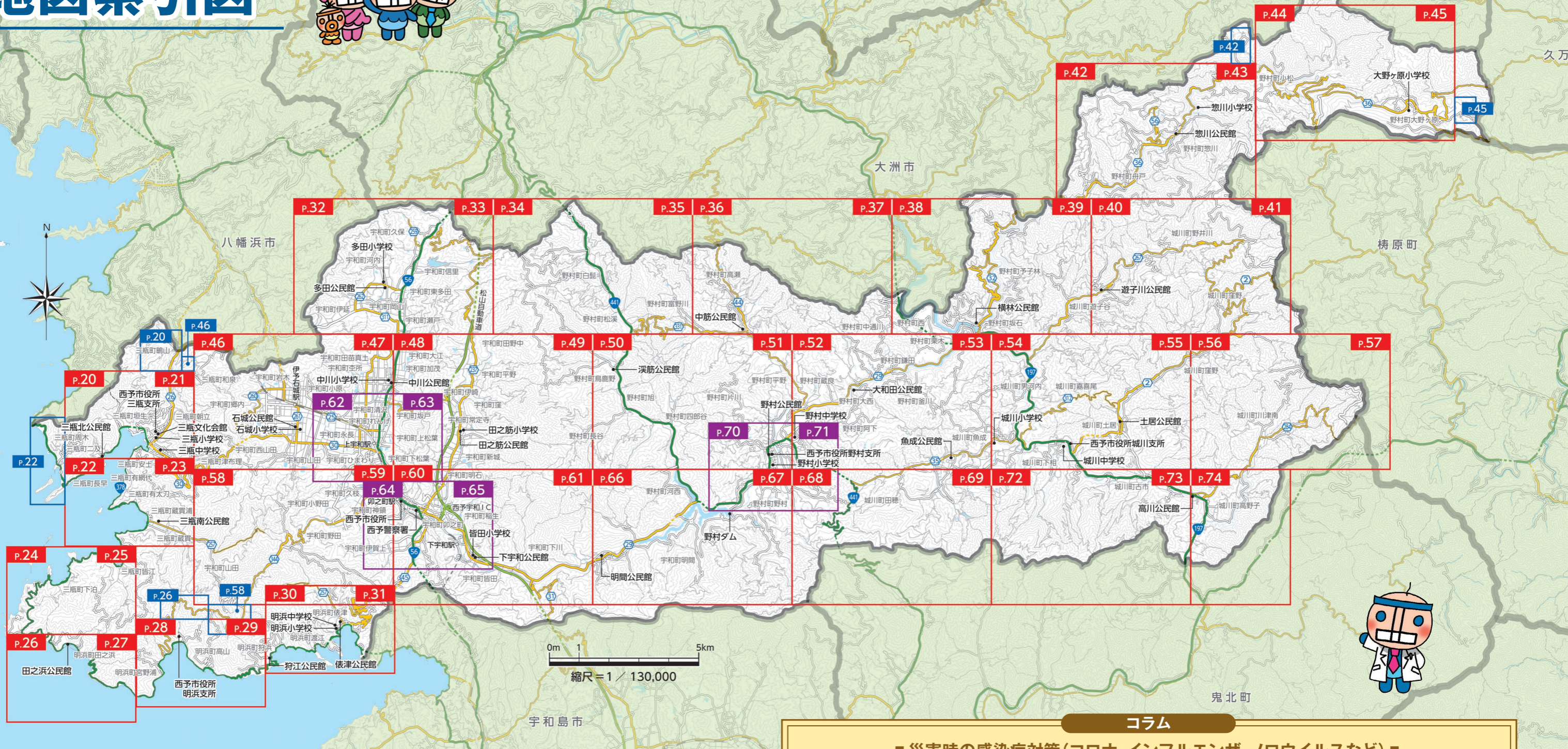


[南海トラフ巨大地震が起こったときに予測される震度分布図]



※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。
 ※2 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されることになります。
 ※3 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

地図索引図



避難所・避難場所の種類とそのマーク

指定緊急避難場所



一時的または緊急的に、危険を回避するための場所。グラウンドや公園緑地などのオープンスペースや一定の安全性のある建物が指定されている。

指定避難所



災害のために避難した住民が一定期間、滞在して生活できる施設。公民館、小中学校、体育館などで、ある程度の人を屋内に収容できる。

福祉避難所



介護の必要な高齢者・障がい者、妊産婦などを受け入れる避難所。指定避難所に避難後、必要な場合に開設されるので、指定避難所から移る。

津波緊急避難場所



津波の避難は、「遠く」より「高く」が重要。津波からの一時避難場所となる安全な高台などが指定されている。

津波避難ビル



津波から一時的または緊急的に避難するため、浸水想定区域内にある堅固で高い建築物。耐震基準を満たし3階以上であるなどの要件がある。

コラム

■ 災害時の感染症対策(コロナ、インフルエンザ、ノロウイルスなど) ■

ポイント1 分散避難

避難所に密集すると感染リスクが高くなるので、自宅にとどまれない場合は、親戚・知人宅、ホテル、車中泊など、地域の人が大勢集まらないように分散して避難する。

ポイント2 避難所での 注意点

- マスク、アルコール消毒液(なければウエットティッシュ)、体温計は、各自が持参する。
- 発熱やせき、体のだるさなどがある人に対しては、別の場所を確保する。
- トイレの使用前後には便座を拭く。



- 手洗いと消毒を徹底する。ドアなど共用部分に触った後や食事の前は必ずアルコール消毒をする。



- パンやおにぎりなど袋入りの食べ物は手でちぎらずに直接食べる。

- 飛沫感染を防ぐため、段ボールで間仕切りしたり、背を向けて座ったりする。

